

文部科学省科学技術振興調整費 「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」の実施状況報告

齋藤 加代子

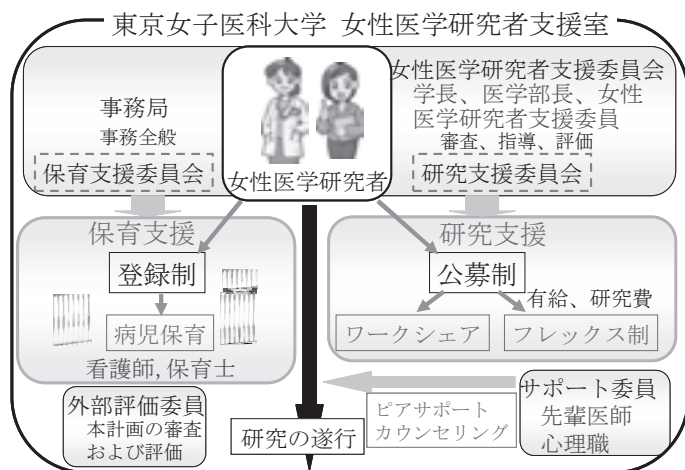
東京女子医科大学女性医学研究者支援室副室長
同 附属遺伝子医療センター所長・教授

【目的】

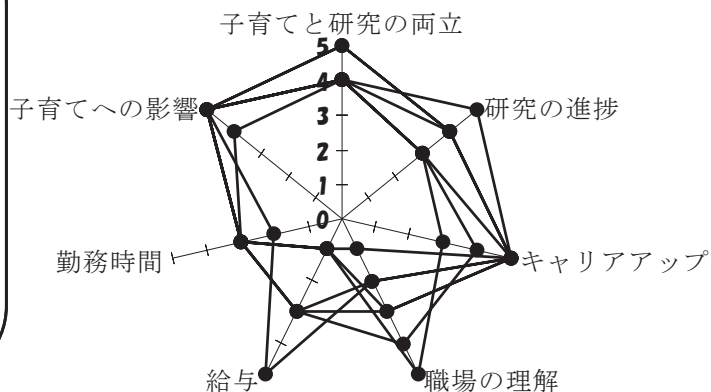
女性医師が子育てのために医学を断念することは多い。さらに医学研究に携わる医学部卒業生は減少傾向にある。医学研究を遂行する女性医師の育成は本学の使命である。このような背景のもとに、指導的立場となる優れた女性医学研究者の育成を行い、医学部、病院における育児支援と女性医師支援のモデルを育成する目的で、本事業を開始した。

【実施状況】

女性医師のキャリア形成において、必要なことは1)子育て支援、2)勤務環境の改善、3)生涯教育・再教育の支援が挙げられる。本事業では、平成18年7月に「女性医学研究者支援室」を設置し、「保育支援」「研究支援」のシステムを構築した。「保育支援」としては、本学の院内保育所に「病児保育室」を導入した。看護師1名、保育士2名が担当している。病院小児科の協力により、円滑な病児保育の環境を整備した。登録児はH18年度には72名、H19年9月現在68名である。利用者はH18年2月が最多であり、疾患は上気道感染症が多かった。「研究支援」としては、平成18年度、平成19年度に研究者の募集を行い、ワークシェアにての研究者が2名、フレックス制の研究者が3名、研究費の支給を受けて研究を開始した。支援を受けている女性医学研究者は1カ月に1回、研究発表会を行っている。本事業の支援を受けた研究者からの評価では、子育てと研究の両立、研究の進捗において評価が高かった。先輩医師や心理職によって構成される「サポート委員」が子育て中の女性医学研究者の相談に乗り、カウンセリングを受けられるように整備した。子育てと研究の実施が可能な体制を構築し、子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、育児との両立によって研究の遂行を可能とするシステムの構築を目指している。本課題終了後は、本学と卒業生の同窓会（至誠会）が協力して本システムを継続し、本学における女性医師の支援体制をさらに発展させていくことが必要である。




支援を受けた女性医学研究者からの
本課題の評価 (n=7 のべ10名)



第2回女性医師支援交流会
2007.10.20

文部科学省科学技術振興調整費



**保育とワークシェアによる
女性医学研究者支援**
事業報告

齋藤加代子 東京女子医科大学
女性医学研究者支援室
遺伝子医療センター

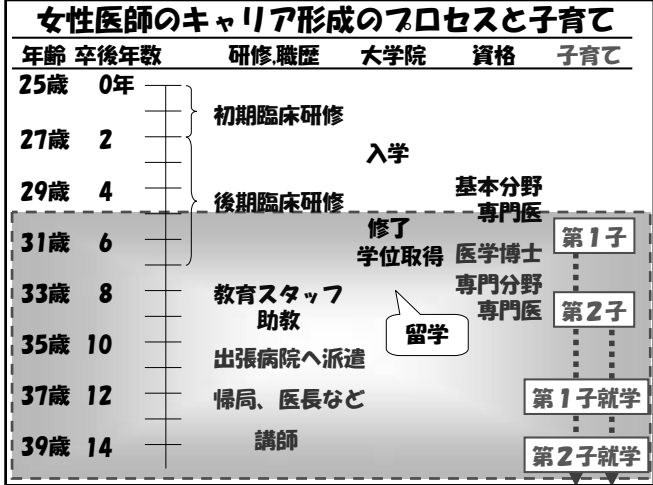
文部科学省 科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」
優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための支援を行う仕組みを構築するモデルとなる優れた取組を支援する。

提案課題名	機関名
H18 保育とワークシェアによる女性医学研究者支援 地域連携によるキャリアパス環境整備 女性研究者の包括的支援「京都大学モデル」 理系女性のエンパワーメントプログラム 女性研究者マルチキャリアパス支援モデル 社の女性科学者ハードリング支援事業 研究者養成のための男女平等プラン 生涯にわたる女性研究者共助システムの構築 女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築 輝け女性研究者！活かす・育てる・支えるプランin北大	東京女子医科大学 熊本大学 京都大学 東京農工大学 日本女子大学 東北大学 早稲田大学 奈良女子大学 お茶の水女子大学 北海道大学
H19 東大モデル「キャリア確立のための10年」プラン 応援します！家族が責任を持つ女性研究者 女性研究者グローバルエンカレッジ 世界へ羽ばたけ！女性研究者プログラム 次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成 隠れた人材を活用した女性研究者支援 発展型女性研究者支援名大モデル 再チャレンジ！女性研究者支援神戸スタイル 支援循環型体制による女性研究者支援モデル リーダーシップを育む広大型女性研究者支援	東京大学 森林総合研究所 産業技術総合研究 九州大学 大阪大学 物質・材料研究機構 名古屋大学 神戸大学 千葉大学 広島大学

東京女子医科大学教員における女性の占める割合
平成18年度

役職	総数	女性数	女性%	年齢
臨床研修医 2年	207	122	62.3	26<
医療練士 5年	207	133	63.0	31<
助教	108	70	34.0	
講師	164	67	40.9	
准教授	108	26	24.1	
教授	112	27	24.1	

大事な時期は30歳代



文部科学省科学技術振興調整費
保育とワークシェアによる
女性医学研究者支援

**女性医師支援のための
保育支援体制の整備に関する調査**

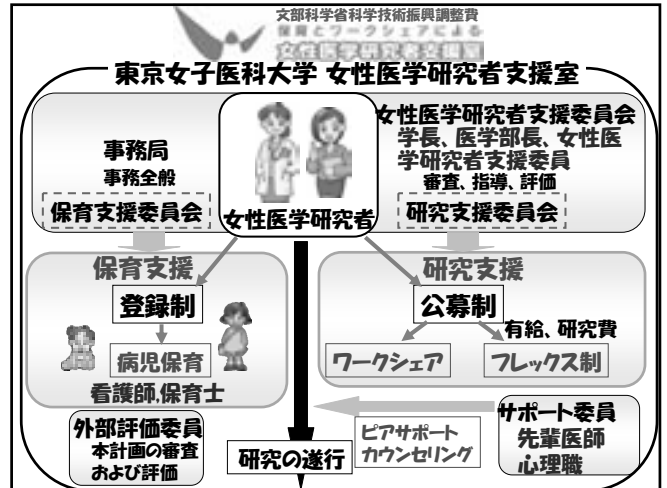
- 配布数 791
- 配布および回収方法
2007年8月31日配布（学内ポスト及び郵送）
2007年9月12日投函（学内ポスト及び郵送）
- 回収数（回収率）240（30.3%）

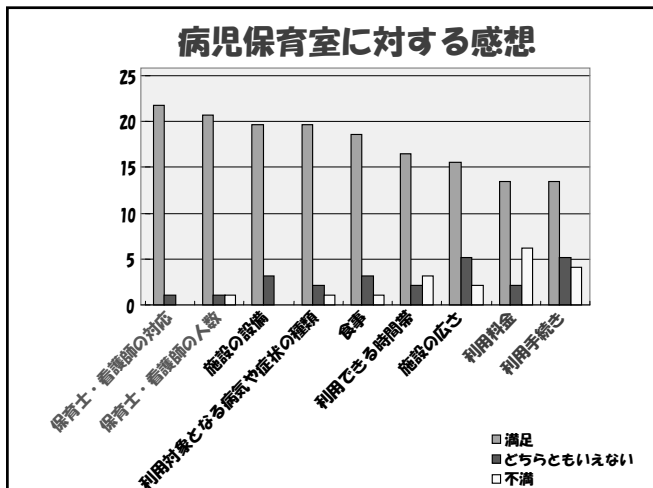
自由記載意見

- 1) 病棟業務が多忙で子をもてない。育児休暇をとれないだろう。上司をみてると出産後の子育てに自信がもてない。
- 2) 医師たちの意識の低さを痛感。女医の妊娠・出産を迷惑としか考えていない上司(男女とも)が多く、他のDr.と100%同じだけの仕事をこなすことを要求される。一般企業での取りくみに比べお粗末。上司・管理職レベルのDr.たちへの意識改善を促す教育が必要。
- 3) 男性、独身や子供のない医師に仕事が集中しないようにする。子育て中で定時に帰る人間と、会議や雑務の多い人間の給料が同じというのは不平等。当然不満もでる。
- 4) 産休・育休をとることは当たり前権利であるべきだが、独身や子供のない人への感謝を忘れてほしい。
- 5) 子育て中ではないDr.の負担が増えちゃうのは申し分ない。例えば時短勤務のDr.の給料を減らし、他のDr.に上乘せすることや、子育て中ではないDr.も、有給休暇の他、長期の休みや時短勤務をとれること等も必要。
- 6) 勤務時間を明確にしてほしい。日勤と夜勤で仕事を引き継いで行なえるような体制は、子育て中の医師も仕事を続けていきやすい。

今、何が必要なのか？

- (1) 子育て支援
 - 保育園の充実
 - 情報提供の充実：保育施設、ベビーシッターなど
- (2) 勤務制度の改善
 - 勤務形態の多様性：ワークシェア、フレックス
 - 再雇用支援制度
 - チーム医療の充実促進
 - 同僚医師への不公平感、負担の減少：
 - 給与、時短での代償
- (3) 生涯教育、再教育の支援
 - ネット活用による遠隔教育で学会参加を認める制度





文部科学省科学技術振興調整費
育児とワークシェアによる
女性医学研究者支援費

研究支援

勤務形態の多様性
任期は1年
ワークシェア
女性医学研究者2名が一人が原則1週間に4日を下限
社会保険料をカバー

フレックス制
女性医学研究者を3名、週25時間を下限
非常勤扱い、社会保険には入れない

文部科学省科学技術振興調整費
育児とワークシェアによる
女性医学研究者支援費

ワークシェア、フレックス制の対象者公募

書類と面接により選考

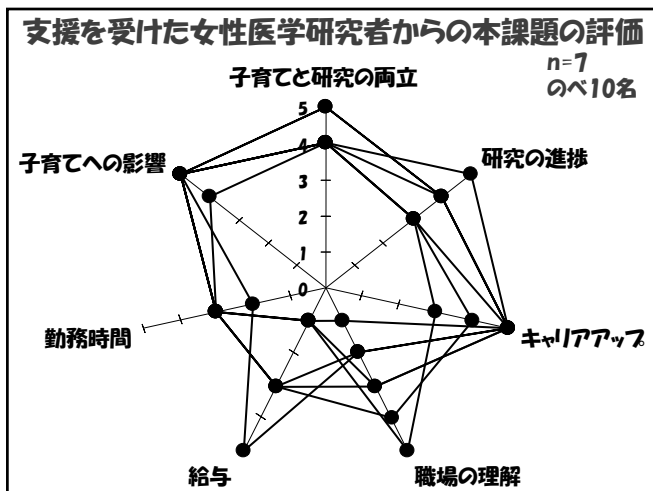
研究費を支給

1年ごとに業績を審査、評価

研究テーマ
形態学的研究、機能的な研究、
分子生物学的研究、診断学的研究、
動物実験研究、疫学研究、
臨床研究、その他

平成19年度研究支援対象者

卒業年(平成)	申請時所属	研究分野	研究課題
ワークシェア			
3	遺伝子医療センター	分子生物学的研究	筋ジストロフィーの遺伝子変異解析による臨床表現型と遺伝子型の関連分析および治療法開発
8	神経内科	形態学的研究	多発性硬化症におけるプロスタグランジンE2合成系の関与
フレックス			
6	循環器内科	臨床研究	循環器疾患における抑うつ、不安、QOLに関する研究
12	呼吸器内科	臨床研究	①ANCA陽性間質性肺炎の頻度と病態 ②禁煙による慢性呼吸器症状の早期改善効果
12	放射線科	臨床研究	パセドウ病の放射性ヨード療法における至適線量の決定





第1回 女性医師支援交流会
平成19年1月20日

まとめと今後の課題

- 1) 女性医師の30歳代はキャリア形成に重要な時期
- 2) 保育支援は女性医師の支援であり、子どもの心身の健全な育成の支援でもある
- 3) 保育支援によって仕事と育児の両立が可能になる
- 4) ワークシェア、フレックス制など多様な勤務形態を取り入れることは子育て期の女性医師の支援となる
- 5) 本学の保育支援、研究支援は大学病院勤務の女性医師の支援モデルである
- 6) 離職を防ぐために、学童保育の支援も急務である
- 7) 同僚医師が感じる不平等感の解消のシステム整備
- 8) 介護支援の必要性

文部科学省科学技術振興調整費
保育とワークシェアによる
女性医学研究者支援

東京女子医科大学

女性医学研究者支援委員会委員 敬称略 ◎委員長 ○副委員長
◎岩田 誠、○斎藤 加代子、○川上 順子、大澤 真木子、高野 加寿恵、
肥塚 直美、加茂 登志子、三谷昌平、高桑 雄一

同スーパーバイザー
永井 厚志、瀧田 祐一郎、吉田 喜昭

保育支援委員会委員
◎斎藤 加代子、平澤 恭子、竹宮 孝子、加藤 郁子、肥田 珠美、吉田 喜昭、
竹原 淳行、遠田 都

研究支援委員会委員
◎岩田 誠、斎藤 加代子、川上 順子、大澤 真木子、高野 加寿恵、
肥塚 直美、加茂 登志子、三谷昌平、高桑 雄一

サポート委員会委員
◎川上 順子、斎藤 加代子、福田 いずみ、加藤 郁子、浦野 真理、出石 陽子

外部評価委員 教育研究資金室
橋本 葉子、南 砂、室伏 きみ子、高松 研、竹宮 敏子 時岡 一啓

病児保育室 女性医学研究者支援室事務
稲葉 千景、滝 明子、矢部 佐保 梅野 愛子